様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 ３０ 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３３２００７４

研究課題名（和文）『文選』の伝承から見た文学言語の型の形成と継承

研究課題名（英文）As basic work for investigating formation and succession of the model of a literary language seen from the tradition of the "Wen xuan"

研究代表者
富永　一登（TOMINAGA, KAZUTO）

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：７０１３２６３６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　14,200,000円、（間接経費）　4,260,000円

研究成果の概要（和文）：『文選』の伝承から見た文学言語の型の形成と継承を追究するための基礎作業として、まず『文選』詩編（12巻分）の訳注作業を完成した。原稿作成は25年度内に完了したので、近々にこれを出版社から刊行し、広く社会に公表する予定である。また、『文選』所収の主な詩人の経歴や作品についてのコメントをまとめた。これも刊行予定の訳書に付載する。更に近年の『文選』研究の整理や唐代宋代の詩人への『文選』の影響についても、学術雑誌などに掲載し、著書としても刊行した。また、台湾大学の柯慶明・蔡瑜の両教授を招聘して『文選』の文学言語の継承に与えた影響について討論を行い、研究成果の国際的交流を行った。

研究成果の概要（英文）：As bacic work for investigating formaition and succession of the model of a literary language seen from the tradition of the "Wen xuan", the translation and annotation work edited(12 volumes) by the "Wen xuan" poetry was completed. Since manuscript creation was completed before the end of the year Heisei 25, it is due to publish this from a publishing company soon and to announce to society officially widely. Moreover, creation of the comment about the main poets' career and work. It publishes on the translation which is due to publish this. Also with arrangement of the "Wen xuan" research in recent years, or the influence of the "Wen xuan" of the poets on the Tang and Song dynasty, it published to the journal, and published as a work. It debated about the consequence of having invited the professor Ke Qingming and Cai Yu of the Taiwan university, and having given succession of the literary language of the "Wen xuan", and performed international exchange of the result of research.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：中国文学　文選学　李善注　五臣注　漢魏六朝文学　昭明太子　『文選』訳注　唐宋詩文

１．研究開始当初の背景

平成 20 年から『文選』の訳注作業に着手し、近年の『文選』に関する研究の成果をもとに、30 数年前に刊行された既訳を一新することを目指していた。

２．研究の目的

『文選』訳注作業の成果を踏まえて、中国文学の型となっている『文選』の伝承過程を検討し、文学言語の型の形成と継承を解明することを目的とした。そのための第一歩として本研究では、新しい『文選』訳注の完成を目指した。

３．研究の方法

研究分担者 5 人と、訳注の原案作成分担を決め、毎月１度、各自が作成した原案について検討を行った。そのさい、近年の研究成果と検索ソフトを活用して、『文選』語彙の意味を詳細に考察し、唐・宋以降の詩文での使われ方についても注目するように心がけた。

４．研究成果

完成した訳注の例として、巻 19、束晳「補亡詩六首」其一「南陔」の第二章までを挙げる。

○『詩経』の「亡」佚した篇、いわゆる「逸詩」を「補」った作。晋の夏侯湛・潘岳などにも「補亡詩」があったというが、『文選』には束晳の六首のみが収められる。「補亡」が詩篇の最初に置かれているのは、詩というジャンルがそもそも『詩経』を祖とし、それを継承すると考えられていたことを示す。

19―5　補亡詩六首　　補亡詩六首　晋・束晳

○『詩経』において本文が失われた六篇の詩を補う作。『詩経』小雅・魚麗の後ろに「南陔」「白華」「華黍」の三首、また小雅・南山有台の後ろに「由庚」「崇丘」「由儀」の三首、いずれも篇名と小序（その篇の内容を短く説いたもの）だけが録される。『詩経』諸篇に倣って一首の詩はリフレインを含む複数の章から成り、ここでは三章の構成。章ごとに一つの韻を用いる。なお李善の引く本詩の序によれば、束晳は郷飲（郷の長官が主催する酒宴）の礼を学んだが、儀式で用いる「南陔」以下の六首が欠如しているのを残念に思い、本詩を作ったという。『儀礼』郷飲酒礼では、郷飲の礼を執り行う際にこの六首を笙（長短十三本の竹管を並べた笛）で演奏すると規定されている。　○束晳　二六一？―三〇〇？。字は広微、陽平郡元城（河北省館陶県）の人。博学によって張華に認められ、著作佐郎などを経て尚書郎に至る。古代の典籍に精通し、『穆天子伝』『竹書紀年』など、当時、墓から出土した科斗文（おたまじゃくしのような形をした古代の書体）の書物を晋の武帝の命を受けて今文（当時通行していた書体）で書写した。現存する詩は本詩のみ。詩人というよりむしろ古典学者であり、本詩も『詩経』の学に連なるものであろう。六首とも教化、頌和を内容とすることから、同時代への言祝ぎの役割があったことも考えられる。『晋書』巻五一。

其一　南陔　　其の一　南陔

南陔、孝子相戒以養也。

南陔は、孝子相い戒むるに養うを以てするなり。

「南陔」の詩は、孝子は親を扶養すべしという戒め。

◎親に孝養を尽くすべきことを説く詩。「序」は『詩経』にのこる小序をそのまま記したもの。以下についても同じ。なお小雅・六月の小序には、小雅の各篇にうたわれる精神が失われるとどのような悪い結果をもたらすかが記され、この篇については「南陔廃すれば、則ち孝友欠く」という。「南陔」は、詩の冒頭一句から二字を取って篇題としたもの。「陔」はうね、土手など盛り上がった地。「南」という方角は万物の成長に結びつく。「相戒」の「相」は、動詞の前について動作が対象に向かう方向性をもっていることを示すもので、戒め合う意味ではない。

（第一章）

循彼南陔　　彼の南陔に循い
言采其蘭　　言に其の蘭を采る
眷戀庭闈　　庭闈を眷恋して
心不遑安　　心　安んずるに遑あらず
彼居之子　　彼の居の子

罔或游盤　　游盤すること或る罔し
馨爾夕膳　　爾の夕膳を馨しくし
絜爾晨飧　　爾の晨飧を絜くす

南の土手に沿って、蘭の花を採る。

家のことが気にかかり、心のなかは落ち着かない。

親もとにいる子は、遊びほうけたりしないもの。

夕べのお膳は香り高くそなえ、朝の料理はさわやかにととのえる。

○循彼・言采二句　父母への捧げ物とするために蘭を摘むことをいう。「循」は沿って行く。「言」は、「ここに」と訓読するが場所を示すのではなく、四字句に整えるための助字。『詩経』に多用される。二句の措辞は『詩経』小雅・杕杜の「彼の北山に陟り、言に其の杞（クコ、薬草の名）を采る」に倣う。「蘭」は、今日のランとは異なり、菊科の香草。ただ『詩経』には衛風・芄蘭に「芄蘭」という蔓植物の名前が見えるのみで、「蘭」が単独で、また寓意を伴って現れることはない。『楚辞』に至って美徳の比喩として定着する。したがってこれは『詩経』を模擬しながらも、『楚辞』を経た後の表現である。　○眷恋　恋い慕う。曹植「親を懐う賦」に「情は眷恋して顧み懐い、魂は須臾（たちまち）にして九たび反る」。　○庭闈　「闈」は小門。ここでは親のいる家を指す。　○不遑　……するゆとりもない。『詩経』小雅・四牡に「啓処する（くつろぐ）に遑あらず」とあるなど常用の表現。　○彼居之子　「居」は出仕する前の部屋住みの身。『詩経』王風・揚子水の「彼の其の之の子」の「其」と同じく、語調を整える助字とみなす説もあるが（清・孫志祖『文選李注補正』巻二）、李善の説に従う。　○游盤　逸楽に耽ることをいう。「盤」は楽しむ。『尚書』五子之歌に「乃ち盤遊（游）して度無く、有洛（洛水）の表に畋して、十旬（百日）も反らず」。　○馨爾・絜爾二句　朝晩、親に心をこめた食事を供することをいう。「馨」はおいしい。「爾」は語調を整える助字。『詩経』に頻出。「絜」は「潔」に通じる。清潔にする。「晨飧」は朝食。「飧」は「餐」に通じる。　○押韻　蘭・安・盤・飧

（第二章）

循彼南陔　　彼の南陔に循い
厥草油油　　厥の草　油油たり
眷戀庭闈　　庭闈を眷恋して
心不遑留　　心　留まるに遑あらず
彼居之子　　彼の居の子
色思其柔　　色　其の柔らかなるを思う
馨爾夕膳　　爾の夕膳を馨しくし
絜爾晨羞　　爾の晨羞を絜くす

南の土手に沿って、草がやさしく生えそめる。

家のことが気にかかり、心はここに留まらない。

親のもとにいる子は、やさしい顔をお見せしたいもの。

夕べのお膳は香り高く、朝の食事はさわやかに。

○油油　草が若々しく生じたさま。殷の忠臣微子の「麦秀の歌」（『史記』宋微子世家）に「麦秀でて漸漸（生えそろうさま）たり、禾黍（アワやキビ）油油たり」。　○眷戀・心不二句　底本では、この二句を「彼居・色思」二句の後ろに置くが、「胡氏考異」が第一章の構成に合わせて入れ替えるのに従う。○色思一句　親に対して穏やかな表情で接しようと思うの意。第二句の「油油」、若草のやわらかさが「柔」に結びつく。「色」は親に対する顔色、表情。『論語』為政に「子夏　孝を問う。子曰く、色難し（いかなる顔つきをするかが難しい）」。　○晨羞　「羞」は食事をすすめる。またその食事。　○押韻　油・柔・留・羞

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 12 件）
1.浅見洋二，眼中に歴歴として豳風を見る―陸游の詩にうたわれた楽土としての農村―，懐徳,82 号，査読無,2014，35-45
2.川合康三，杜甫のまわりの小さな生き物たち，生誕千三百年記念杜甫記念論文集，研文出版，査読無，2013，113-133
3.緑川英樹，雨の情景―陳与義の詠雨詩と杜甫―，中国文学報，83 冊，査読無，2012，175-199
4.川合康三，杜甫の「貧しさ」をめぐって，中国文学報，83 冊，査読無，2012，35-53
5.釜谷武志，杜甫の中の陶淵明，中国文学報，83 冊，査読無，2012，160-174
6.川合康三，「自適」の生成―陶淵明・江淹・白居易―，林田慎之助博士傘寿記念三国志論集，汲古書院，査読無，2012，237-256
7.緑川英樹，莫砺鋒詩話，飆風，51 号，査読無，2012，35-64
8.緑川英樹，梅堯臣・蘇舜欽研究論著目録，橄欖，19 号，査読無，2012，25-57
9.和田英信，蘇軾の詠画詩―元祐年間を中心に―，お茶の水女子大学中国文学報，30 号，査読無，2011，63-77
10.浅見洋二，子どもの情景、あるいは田園の憂鬱―楊万里の詩について―,創文，1 号，査読無，2011，4-6
11.川合康三，中国的隠逸・日本的隠逸：試論夏目漱石的『草枕』，台大日本語文研究,22 巻,査読有，2011,43-64
12.釜谷武志，両漢時期的思想文学，思接千載，復旦大学文史研究院・中華書局編集部編，査読無，2011，77-90

〔学会発表〕（計 16 件）
1.富永一登，中国古典に描かれた理想郷―桃花源と和神国―，広島市立中央図書館・広島大学図書館連携事業講演会，2013 年 12 月 7 日，広島市立中央図書館
2.川合康三，漢字与中国文化，第 2 回台大・成大・東華三校論壇研討会，2013 年 11 月 9 日，台湾逢甲大学，台湾
3.緑川英樹，訳注を語る、訳注が語る―出版と読書会のむかし・いま・あした，中唐文学会，2013 年 10 月 11 日，秋田大学
4.川合康三，林文月先生の『源氏物語』翻訳，林文月先生記念学術研討会，台湾大学，台湾，2013 年 5 月 5 日
5.川合康三，事実与表達，第 1 回台大・成大・東華三校論壇研討会，2013 年 5 月 31 日，台湾東華大学，台湾
6.川合康三，貧士之諸面相，台湾国立中央研究院研究会，2013 年 3 月 11 日，台湾国立中央研究院，台湾
7.川合康三，日本唐代文学研究的回顧与展望，中国唐代学会，2012 年 12 月 22 日，国立台湾師範大学，台湾
8.川合康三，悲観与楽観―中日文学比較，台湾逢甲大学文学院研究会,2012 年 12 月 18 日，台湾逢甲大学文学院，台湾
9.富永一登，中国古小説の展開，広島市立中央図書館・広島大学図書館連携事業講演会，2012 年 12 月 1 日，広島市立中央図書館
10.川合康三，中国文学史的誕生，国立台湾師範大学歴史系研究会，2012 年 11 月 8 日，国立台湾師範大学，台湾
11.富永一登，見ぬ世の人を友とする―『文選』の受容―，広島市立中央図書館・広島大学図書館連携事業講演会,2011 年 12 月 11 日，広島市立中央図書館
12.川合康三，杜甫与春花，国立政治大学中文系講演会，2011 年 11 月 22 日，国立政治大学，台湾
13.川合康三，21 世紀的中国古典文学，台湾中国学会創立大会，2011 年 11 月 20 日，国立台湾大学，台湾
14.川合康三，中国古典文学的存亡，台湾大学中文系講演会，2011 年 10 月 3 日，国立台湾大学，台湾
15.浅見洋二，宋代文本生成論之形成―従欧陽脩撰『集古録跋尾』到周必大編『欧陽文忠公集』―，第 7 回宋代文学国際学術研討会，2011 年 9 月 18 日，中国開封市，中国
16.川合康三，中国の隠逸・日本の隠逸―夏目漱石『草枕』に見る日本近代の隠逸観―，EAJS（ヨーロッパ日本学会），2011 年 8 月 25 日，タリン大学，エストニア

〔図書〕（計 11 件）
1.和田英信，盆詩の会，宋詩別裁五言絶句訳注，2014，73（9-10，19-21，35-36，48-49，58-59，65-67 担当）
2.緑川英樹，汲古書院，詩僧皎然集注，2014，306（160-163，244-249 担当）
3.川合康三，講談社，桃源郷―中国の楽園思想，2013,219
4.富永一登，研文出版，中国古小説の展開，2013，536
5.浅見洋二，汲古書院，蒼海に交わされる詩文，2012，370
6.和田英信，研文出版，中国古典文学の思考様式，2012，335
7.釜谷武志，岩波書店，陶淵明―「距離」の発見，2012，211
8.川合康三，岩波書店，杜甫，2012，250
9.川合康三，岩波書店，白楽天詩選（下），2011，413
10.川合康三，岩波書店，白楽天詩選（上），2011，424
11.川合康三，岩波書店，中国の恋のうた，2011，216

６．研究組織
(1)研究代表者
富永　一登（TOMINAGA　KAZUTO）
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：70132636

(2)研究分担者
川合　康三（KAWAI　KOZO）

京都大学・大学院文学研究科・名誉教授
研究者番号：40108965

釜谷　武志（KAMATANI　TAKESHI）
神戸大学・大学院人文学研究科・教授
研究者番号：30152838

浅見　洋二（ASAMI　YOJI）
大阪大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：70184158

和田　英信（WADA　HIDENOBU）
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授
研究者番号：20231037

緑川　英樹（MIDORIKAWA　HIDEKI）
京都大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：30382245